長洲町立長洲小学校　校長便り　No.９５

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和５年６月１日(木)

独り言

先日、家族の食事を買いに行った時のこと、こんな場面に出くわしました。２０代前半と思しき青年と、そのお母様だと思います。青年と母親はイートインコーナーで食事をしていました。何気なく目をやると、青年の箸の使い方とお椀の持ち方が、よく小学生がやるような持ち方でした。お椀に人差し指をかけて持つ持ち方って分かりますか？いい年の青年がその持ち方は無いでしょ…って思いながら、更にびっくりしたのは、お母様はそれを嬉しそうに眺めながら、「○○ちゃん、おいしい？」と言って、お椀の持ち方さえ注意しません。私は子供の頃、かなり厳しく言われていましたので、気になって仕方がありませんでした。

他人のご子息に大きなお世話と言われそうですが、学校現場では見過ごす訳にはいきません。給食時間に各教室を見渡しますと、同じような持ち方をしている子供達がいるのも事実です。更には、飯器、汁器を手に持たずに口を近づけていく、いわゆる「犬食い」と呼ばれるような食べ方をする子もいます。ご家庭でも要チェックです。

夜噺「梅雨の遊び」

今年は早めの梅雨入り宣言が出されました。梅雨の時期、外は雨が降ることが多いので遊びは限定されてしまいます。かたつむりを見つけて観察なんてのも良いですが、外にいる時間は晴れた日に比べれば短いものです。室内でも退屈せずに過ごす方法…、私は色々な趣味に費やす時間が多いのですが、最近では家族の買い物に付き合わされることもしばしばです。

その買い物に付き合ったときのこと、あるスーパーのレジの横に、雑誌が陳列されていました。その中の“漢字ナンクロ”という文字に引かれ、気の向くままに購入。もっと引かれたのは、商品の数々です。商品の中には、現金２万円、ってのもあり、早速帰ってから、食事しながらチャレンジです。趣味に使うお金を稼ぐ？ために、私は真剣です。手元に辞書を置いて問題に取り組みました。するとどうでしょう。あっという間に時間が過ぎるではありませんか。大人でもこれだけ楽しめるとなると、子供達も結構のめり込むのでは？　重ねて、漢字の学習にもなるし。まぁ、漢字ナンクロは少々難しいので、普通にクロスワードパズル等は如何でしょう。梅雨の時期の暇つぶし？　いや、商品（賞金）稼ぎ？の主体的取組です。家族協働で取り組んでもいいですね。その活動の中で親子の「あ～でもない、こ～でもない。」と会話が生まれ、知識を積み重ねることもできる、一石二鳥の取組です。

私は、先日、あるクロスワードに挑戦したのですが、中々に難しいものです。でも、解けた時の達成感は非常に大きいですね。梅雨のさ中、こんな暇つぶし？も楽しいものです。（私のように商品、賞金目当てだと、応募しても中々当たりませんが…でも真剣です!?）最近は応募期間が長い雑誌もあり、梅雨の時期の活動にはピッタリですよ。大人もはまる漢字ナンクロ、やってみませんか？

シリーズ「自分を語る」#95

チェさんとの研修行脚は、私にとって多くの発見があり、世の中の見聞を広めてくれることになりました。その幾つかを紹介します。畜産関係、食物衛生関係の施設見学がそれです。

「熊本県食肉衛生検査所」は七城町にあります。業務を簡単に言うと、私達が口にするお肉の生産（と畜）とその検査ですね。この施設では、熊本で初めての「牛海綿状脳症（BSE）」が発見されました。所員の方がその時の大変な状況をお話し頂きながら、施設の見学をするのですが、これがすごいのなんの。「と畜」と書けば簡単ですが、大きな牛や豚、馬を食べられるようにお肉にするのですから、施設も大型です。私達が視察したのは、牛のと畜ラインの一部でした。通路の脇にはコンテナが数個並べられていて、何が入っているのだろうと思って見てみると、何と牛の頭でした。所員の方の説明によると、それはラーメンなどのダシを取るために使われているとのことでした。その通路を通りながら、私達が改めて「命を頂く」ことによって生きている、生かされているのだと痛感しました。子供達に好きな食べ物は何？と聞くと、口々に「ステーキ！」等と答えますが、それが食卓に並ぶまでの苦労、生産者の願いや思い、動物たちの感情を考えると、何か複雑な気持ちになります。

同じような施設をもう一つ、それは「千興ファーム」です。ここは県下有数の馬肉の生産を行っています。いわゆる“馬刺し”の生産ですね。ここも「と畜」を行っているのです。ここに行く途中の道には、数十頭の馬がいました。そうです、と畜を待つ馬たちです。もう、そこから何となく切ない気持ちになってきました。施設に入ると、淡々と生産ラインを歩きながら説明をしてくださる職員さんでしたが、チェさんは専門分野ですが、私は専門外どころか社会見学に来た小学生と一緒です。まず、馬がと畜場に入ると眉間の付近をハンマーのような銃（と仰っていました）で衝撃を与え気絶させ、その後血抜きのため頸動脈を切断します。馬は大きなもので１トンを超えます。血抜きをすると胴体が痙攣するため、加工中に作業員が蹴られると大怪我に繋がります。そのため、血抜きと同時に背髄に大きな鉄棒を刺し、馬の体が反射的に動かないようにします。その後、クレーンで吊るして加工します。ここまでくると、作業はスピードを増していきます。クレーンに吊るすまでは「ダーティーゾーン」、吊るされた後は「クリーンゾーン」で作業をします。クリーンゾーンでは、時間との勝負です。鮮度を落とさないようにするためですね。所員の説明によると、１日にと畜するのは、多くて５～６頭（当時）だそうです。

この施設でも、作業員の苦労、食の安全性を目指す職員の思いや願い等々を感じ、「命」を頂くことの有難さを感じ、当たり前ではなく有難い事なのだということを学校現場で伝えていこうと誓いました。

この視察後、私たち２人はすぐ近くにある「サントリー熊本工場」を見学し、生産ラインを見学した後、ビールの試飲コーナーに！　でも、私はハンドル・キーパー…、チェさんが飲むのを羨ましく見るだけでした。その日の夜はプレミアムなビールと馬刺しで、改めて「命を頂く」ことに感謝して食事をしました。そして、今後担当するであろう子供達に伝えていこうと誓う澤田でした。　（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）